

文化芸大 小里さんデザイン

浜松市は、東京大学生産技術研究所や全国の自治体でつくる科学自然都市協創連合主催の「大漁旗プロジェクト」に出品する大漁旗のデザインについて、静岡文化芸術大デザイン学科三年の小里弓子さん(20)の作品を選んだ。特産のウナギなど、浜松の魅力を表現したデザイン。市の山名裕政策補佐官が二十九日、同大で小里さんに賞状と賞金を手渡した。(坂本圭佑)

プロジェクトは、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の視点からまちづくりを考えようと、各自治体から大漁旗を集め、日本沿岸を航行する船に旗を託して各地を結ぶ。二〇二一年一月には東京大和田講堂に掲げられる。市は六月末から二カ月間、静岡文化芸術大の学生にデザインを募集していた。

大漁旗に浜松の魅力

SDGs 取り組み表現

事前に学び、エネルギーは太陽光発電、森林は天竜の山々、多文化共生は色の異なる二つの手で表現した。小里さんは、新型コロナウイルスの感染拡大でオンライン授業の期間中、「手を動かしていないと腕が鈍る」と考え約一カ月で制作を進めていきたくと話した。



浜松の特色をデザインした作品を説明する小里弓子さん。浜松市中区の静岡文化芸術大で